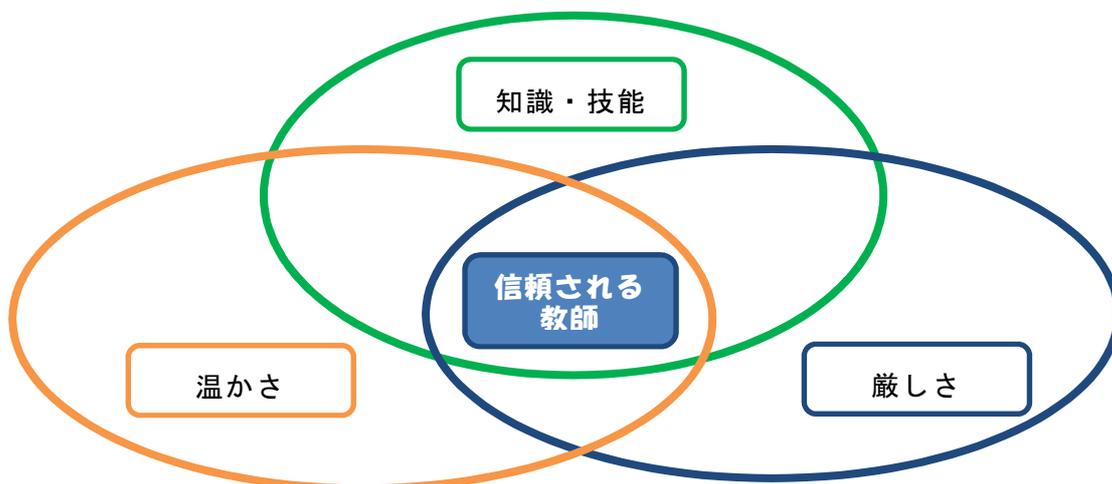


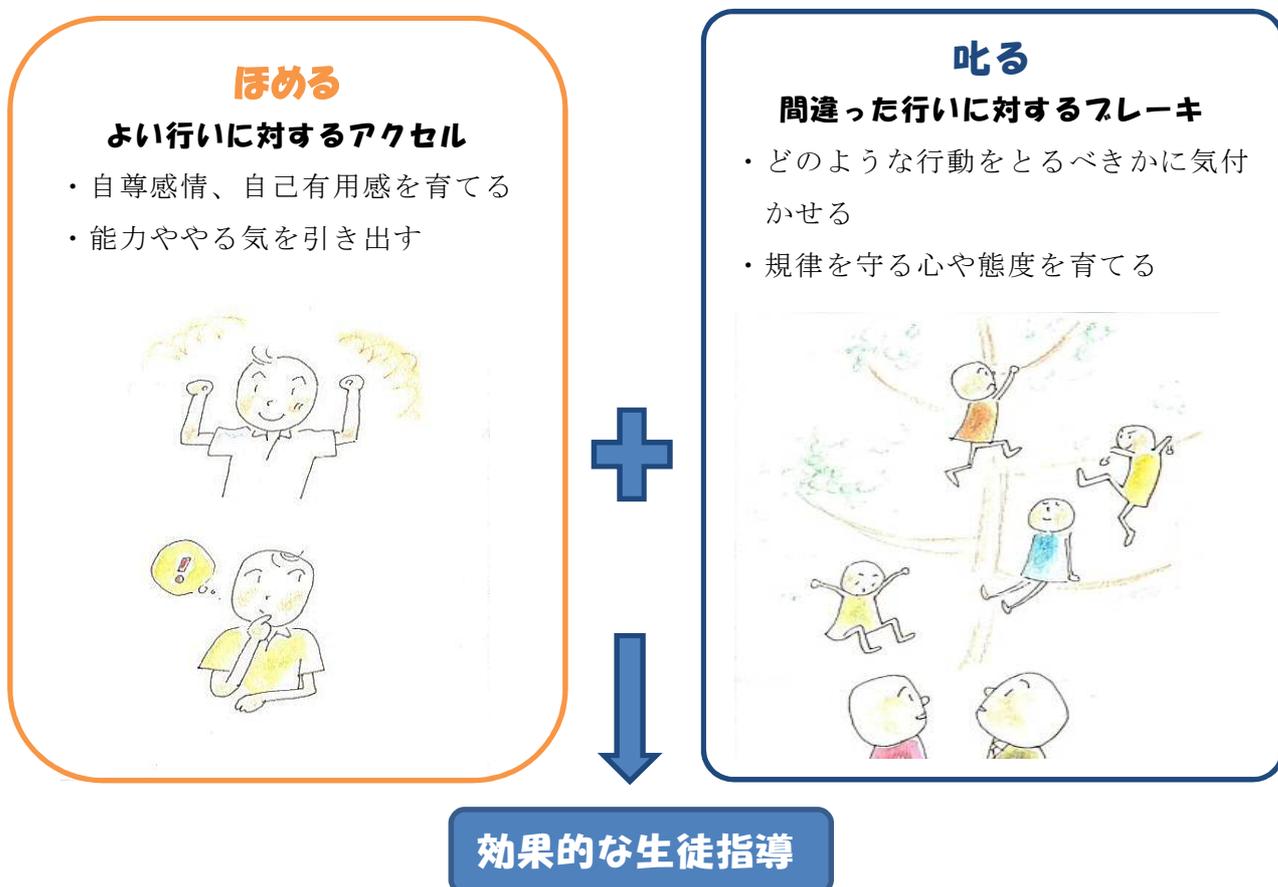
I 生徒理解

(1) ほめ方と叱り方

優れた知識・技能に加え、人間的な温かさと厳しさを合わせもつこと、それが信頼される教師の条件です。



児童生徒を指導するためには、「ほめる」「叱る」を使い分ける必要があります。「ほめる」ことは「よい行いに対するアクセル」、「叱る」ことは「間違った行いに対するブレーキ」の役割を果たします。



ほめ方のポイント

- 1 児童生徒の成長を願い、激励の気持ちでほめる
➡ 児童生徒を励ます気持ちや味方になろうとする態度が、指導の効果を高め、児童生徒の成長を支えます。
- 2 児童生徒をしっかりと観察してほめる
➡ 日頃から児童生徒のよいところを見つけるようにし、小さなことでも具体的な事実に基づいてほめることが大切です。
- 3 結果が悪くても、努力や態度をほめる
➡ 成績や順位に関わらず、児童生徒のがんばっている点や真面目に取り組む態度、努力は、積極的に評価すべきです。
- 4 よい行いは、繰り返しほめ続ける
➡ 一度ほめれば十分というものではありません。言葉を使い分け、繰り返しほめることが、児童生徒のがんばろうとするエネルギーとなります。

叱り方のポイント

- 1 多くの人がいるところでは叱らない
➡ 人は誰でもかけがえのない存在であり、人格を有しています。児童生徒の存在を否定したり人格を傷つけたりしないよう配慮することが必要です。
- 2 一つの事に絞って叱る
➡ 一度にあれこれ叱っているのは、叱るべき内容の焦点がぼけ、指導上の効果は弱くなります。
- 3 叱る理由を児童生徒に理解させる
➡ 頭ごなしに叱るのではなく、何がいけないのか児童生徒に理解させることが大切です。
- 4 一方的に叱らずに、児童生徒の言葉をしっかりと聴く
➡ 児童生徒の反応をじっくりと待ち、児童生徒が発する言葉に耳を傾けることが、効果的な指導につながります。

ほめ方と叱り方に関するチェックシート

次の事項について、自分自身に改善すべき点がないか点検してみましょう。

- | | | | |
|----|--------------------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| 1 | 自分の気持ちがイライラしたとき、つい叱ってしまうことが多い。 | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 2 | 理由を聞かないで頭ごなしに叱ることがある。 | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 3 | 児童生徒を叱っている中で、つい嫌みを言うてしまうことがある。 | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 4 | 大きな声で威圧的に叱ることが多い。 | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 5 | 叱っている時に自分の気持ちを抑えきれず、自分を見失ってしまうことがある。 | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 6 | 特定の児童生徒ばかりほめることが多い。 | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 7 | 特定の児童生徒ばかり叱ることが多い。 | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 8 | 結果だけを見てほめることが多い。 | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 9 | 児童生徒は教職員の言うことに素直に従わなければならないと思っている。 | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 10 | 学校にはよい児童生徒と悪い児童生徒がいると考えている。 | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 11 | 児童生徒の言動を見てよくないと思っても、見逃してしまうことがある。 | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |

※「はい」に印のある場合は改善を考えてみましょう。

(2) 児童生徒との信頼関係づくり

ア 児童生徒の心や気持ちを優先する

児童生徒一人一人は、かけがえのない存在です。日頃から目の前にいる児童生徒を見つめ、まずは、児童生徒のありのままを認めるところから関係づくりが始まります。

一方的に教えるのではなく、児童生徒の中にあるたくさんの素晴らしいものを引き出しましょう。児童生徒は、自分自身が気づいていなくても、秘めた力をもっています。お互いに認め合い、信頼することで、児童生徒から秘めた力を引き出すことができるようになります。

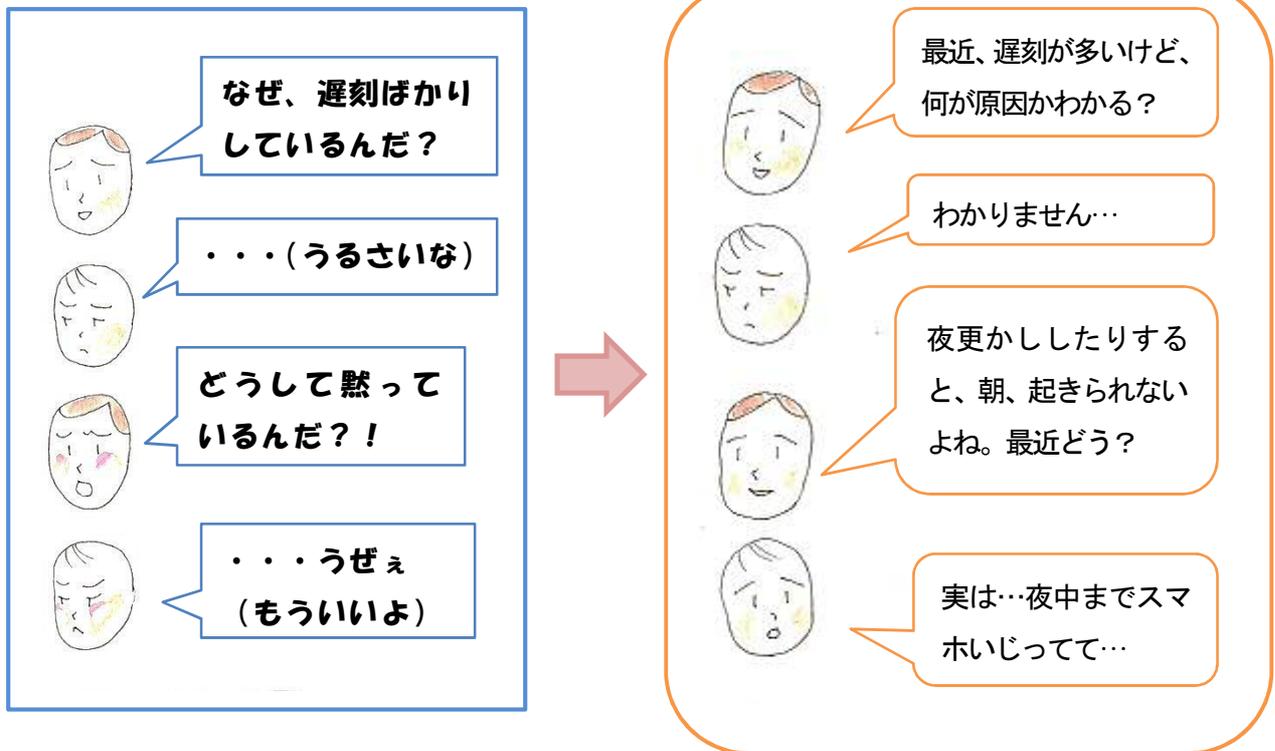
《指導をするときの視点》

①一人一人はかけがえのない存在であると認識する

②児童生徒の秘めた力を引き出す

イ 「なぜ？」から「何が？」へ

「なぜ？・どうして？」という聞き方より、「何が？・どうしたらできる？」という言葉を用いて働きかける方が、相手は安心して客観的に応答することができます。



「なぜ？・どうして？」と聞かれると、一方的に責められているような精神的な圧迫を感じることがあります。それに対して、「何が？」には、やわらかい響きもあり、児童生徒に考える時間を与え、自分の考えや気持ちを素直に表現することができるようになります。

ウ 児童生徒の言葉に心から耳を傾ける

「聴いているよ」というメッセージを言葉や態度に込めて聴くことで、児童生徒は安心して話すことができます。

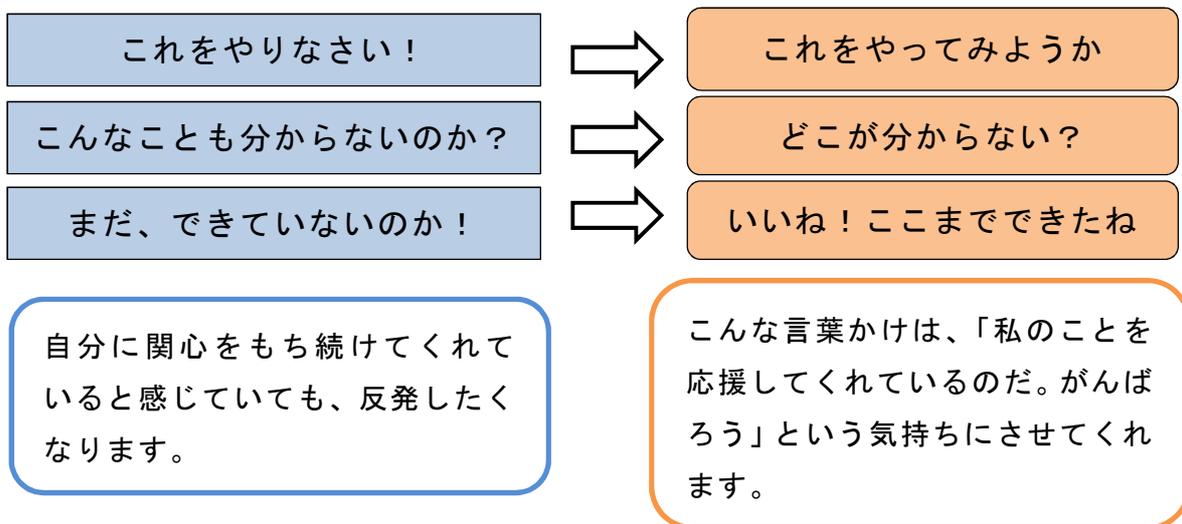
《話を聴くとき》

- ①自分のしていることをやめ、聴くことに集中する
- ②相手の顔を見ながら聴く
- ③あいづちをうちながら聴く
- ④相手の言葉を繰り返し、言い換え、要約しながら聴く
- ⑤最後まで聞く

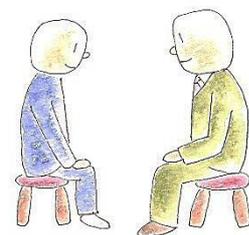
いつも相手の話をきちんと受け止める気持ちがあれば、相手との会話が成り立ち、よりよい人間関係を築いていくことができるようになります。

エ 温かいメッセージの贈りもの

児童生徒に、「あなたのことを見守っているよ」という姿勢をもち続けることで児童生徒は安心します。



「いつでもあなたのそばにいるよ」という気持ちを込め、温かいメッセージを送り続けていきましょう。「私は、この部分はいいと思うよ」「私も、うれしくなるな」「私は・・・と思う（感じる）」など、「私メッセージ」を送り続けましょう。



信頼関係づくりチェックシート

1 児童生徒にすすんで声をかけている	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
2 児童生徒と接する場面を意図的に設定している	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
3 仕事をしながら、耳だけで児童生徒の話を聞いている	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
4 忙しいとき、つい「あとで」と言ってしまう	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
5 児童生徒の学校・家庭での様子について把握している	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
6 児童生徒の悩みや人間関係を把握している	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
7 児童生徒に明るく温かい言葉をかけている	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
8 児童生徒を自分の言うとおりにさせようとしている	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
9 児童生徒一人一人のよさや可能性を把握している	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
10 児童生徒との共感的な関係づくりに努めている	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ

※現在の自分の「姿」を受け止めて、これからの指導の在り方について考えてみましょう。

体罰防止チェックシート

次の1～12のチェック項目を読んで、自分がどれくらい当てはまるか、それぞれの数字を記入し、あなた自身の教育活動全体を振り返ってみましょう。



5	そう思う	4	ややそう思う	3	どちらともいえない
2	あまり思わない	1	全く思わない		

	チェック項目	数字
1	指導中、感情的になって身体を叩いたり、蹴ったりする行為には教育的効果がないと思っている	
2	問題が起きた時に理由も聞かず怒ったりしないで、冷静に話を聞くことができる	
3	児童生徒・保護者と信頼関係があっても体罰は許されないと考えている	
4	指導がうまくいかないときは、児童生徒のせいにならないで、指導の内容・方法を考え直す必要があると思っている	
5	指導中に感情的になって机を叩いたり、蹴ったりするなどの威圧的な態度には教育的効果がないと思っている	
6	生徒指導は一部の教職員だけが行うのではなく、チームプレイが大切だと思っている	
7	他の教職員が体罰しそうになったら、制止しなければならないと思っている	
8	問題が起きたときや保護者からのクレームを、ひとりで抱え込まないで、他の教職員や管理職に相談するようにしている	
9	生徒指導に対して、他の教職員の指導法と比較して、結果を焦ることはない	
10	問題行動は児童生徒からのサインのひとつだと思っている	
11	授業中の私語や反抗的な態度については、その背景を考えることが必要だと思っている	
12	児童生徒・保護者に対して、教えてやっている、面倒を見てやっている、という態度で指導したり、接したりすることはない	
	数字の計	／60

Ⅱ アンガーマネジメント（感情のコントロール）

人は誰しもついカッとなったり、イライラが高じてしまったりするために、怒りの感情（アンガー）をコントロールできず、その感情を他の人に強くぶつけてしまうことがあります。誰でも怒りの感情をなくすことはできませんが、怒りの特性を理解し、その感情とうまく付き合うことは可能です。ここでは、自分自身の感情と適切に向き合っていくための一つの方法として、「アンガーマネジメント」のプログラムを紹介します。

（１）怒りの感情の察知

怒りを爆発させないためには、自分の怒りに素早く気付くことです。例えば怒ったときは、体や心に変化が現れるといわれています。

最近、あなたがひどく怒ったときのことを思い出してください。当てはまるものがあるかチェックしてみましょう。

◆ひどく怒ったときに、あなたの体にはどんな変化が現れましたか？

- | | |
|------------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 胸が締めつけられる | <input type="checkbox"/> 顔がひきつる |
| <input type="checkbox"/> 手を握り締める | <input type="checkbox"/> こわばった姿勢になる |
| <input type="checkbox"/> 目つきがきつくなる | <input type="checkbox"/> 呼吸が速くなる |
| <input type="checkbox"/> 息苦しくなる | <input type="checkbox"/> 動悸がする |
| <input type="checkbox"/> 体が熱くなる | <input type="checkbox"/> 汗をかく |
| <input type="checkbox"/> 頭が痛くなる | <input type="checkbox"/> その他自分が感じた変化 |

◆ひどく怒ったときに、最初にあなたの頭に浮かんだことはどんなことでしょうか？

- | | |
|---|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 相手は私を憎んでいるにちがいない | |
| <input type="checkbox"/> 相手は私を傷つけようとしているにちがいない | |
| <input type="checkbox"/> 私は一生懸命なのに、相手は私をバカにしているにちがいない | |
| <input type="checkbox"/> こんなことをした相手を私は決して許さない | |
| <input type="checkbox"/> こんなことがあるなんて信じられない | |
| <input type="checkbox"/> こんなことをした相手が嫌い | |
| <input type="checkbox"/> 相手に仕返ししてやりたい | <input type="checkbox"/> その他自分が感じた変化 |

自分自身の体や心にどんな変化が起こるのかを事前に知っておくことが大切です。怒りが爆発する前に自分自身の変化に気付けば怒りと上手に付き合うことができます。

(2) 自分の「怒り（アンガー）」のレベルを知る（攻撃性質問票）

次の（ア）～（ヘ）の質問を読んで、自分がどれくらい当てはまるか、それぞれの数字を記入してみましょう。

5 非常に当てはまる	4 やや当てはまる	3 どちらでもない
2 やや当てはまらない	1 全く当てはまらない	

質 問 項 目	数字
（ア）私は誰かを殴りたくなる衝動をコントロールすることができないことがある。	
（イ）私は普通の人よりも少し多くけんかをする。	
（ウ）私は人にムッとさせられたら、相手にどう思ったかはっきり伝える。	
（エ）私はすぐにカッとなるが、忘れるのも早い。	
（オ）私は正当な理由もなくキレることがある。	
（カ）私は嫉妬に悩まされることがある。	
（キ）私は誰かに体を押されてけんかになったことがある。	
（ク）私は感情をコントロールすることが難しい。	
（ケ）私はよく怒ったような言い方をしている。	
（コ）私は自分が爆発しそうな火薬庫のようだと思うことがある。	
（サ）私はひどく挑発されれば殴るかもしれない。	
（シ）私は頭にくると物を壊すことがある。	
（ス）私は他の人が私に特にやさしく接してくると、何かしてほしいのかと思ってしまう。	
（セ）私は自分が冷静さに欠けることがあると思う。	
（ソ）私は欲求不満がたまるとイライラを表に出すことがある。	
（タ）私は友人に親切にされても、何か裏があるのではないかと疑ってしまうことがある。	
（チ）私は短気だと人に言われることがある。	
（ツ）私は誰かが殴ってきたら、逃げ出さずに殴り返すと思う。	
（テ）私はよく人と言い争いをする。	
（ト）私はまわりの人が自分のあら探しをしていると感じることがある。	
（ナ）私は正当な理由があれば人を殴ってもよいと思う。	
（ニ）私はひどい扱いを受けていると感じることがある。	
（ヌ）私は友人にも納得できないときはストレートに言う。	
（ネ）私は陰で笑われていると感じることがある。	
（ノ）私は例えば自分の物を盗んだ人が分かったなら、その人を殴るかもしれない。	
（ハ）私は人が自分に同意しないとき、言い争いになるのを抑えられない。	
（ヒ）私は知人に声を荒げて怒ることがある。	
（フ）私の友人は、陰で私の悪口を言っていると思う。	
（ヘ）私はどうして自分だけこんなにつらいのだろうと思うことがある。	

各質問の右に記入した数字を得点として、「尺度別採点シート」に内容別に記入してみましょう。

【尺度別採点シート】

●「身体的攻撃」 実際の攻撃的行動の危険レベル

(ア)	(イ)	(キ)	(サ)	(シ)	(ツ)	(ナ)	(ノ)	(ヒ)

合計_____点 (標準的な範囲 12点～32点)

●「言語的攻撃」 侮辱や言語的な攻撃行動により他者を傷つける危険レベル

(ウ)	(ケ)	(テ)	(ヌ)	(ハ)

合計_____点 (標準的な範囲 10点～19点)

●「怒り」 行動のうちの情緒的レベル

(エ)	(オ)	(ク)	(コ)	(セ)	(ソ)	(チ)

合計_____点 (標準的な範囲 11点～22点)

●「敵意」 嫌悪・不当の感情レベル

(カ)	(ス)	(タ)	(ト)	(ニ)	(ネ)	(フ)	(ヘ)

合計_____点 (標準的な範囲 14点～26点)

合 計_____点 (標準的な範囲 52点～94点)

※95点以上の人は、「自分は攻撃性が強い」と認識しましょう。

(参考)

「怒りとうまくつき合うために一心の学習(サイコエデュケーション)ーキレイなコツを理解しよう!ー」

(2007 中村道彦編 金芳堂)

「キレイやすい子の理解と対応～学校でのアンガーマネジメント・プログラム」(2002 本田恵子著 ほんの森出版)

アンガークントロールトレーニングー怒りを上手に抑えるためのステップガイドー



(3) 自分の怒りを察知したときの対処法

対処の3段階	各段階のポイントや留意点
① 感情の冷却 落ち着いて	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは衝突を回避する方法を知り、実践する段階です。 ・心の中で「ストップ」と叫び、感情に任せた即座の行動や発言にブレーキをかけます。深呼吸しながら数秒間、心の中でゆっくりと数(1, 2, 3, 1, 2, 3…)を数え、緊張を和らげます。
② 解決思考 感情よりも思考を優先させて	<ul style="list-style-type: none"> ・突発的な言動が抑えられたところで、自分の思考や相手の言動を振り返り、怒りの分析をします。 <p style="text-align: center;">○わたしは、何に怒っているのだろうか？ ○それは、怒りを爆発させるぐらい大変なことなのか？ ○自分は間違っただけの思い込みをしているのではないか？ ○自分は相手に何を理解してもらえば満足なのか？ ○相手は一体何を言いたかったのか？ ○相手はなぜそういう言動をとったのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不明な点があれば、相手に尋ねたり、時間を置いて再度考えたりするのも一つの方法です。 ・自分の感情を言語化できるようになれば、冷静な対応が可能になるはずです。
③ 自己表現 さわやかに自己主張	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を表現してみる段階です。必要以上に遠慮することなくアサーティブ(※)に自分の考えや思いを正直に伝えます。相手を傷つけたり困らせたりする報復や攻撃を目指すものではありません。 <p style="text-align: center;">【表現の例～掃除をさぼっている生徒に～】</p> <p>『私は〇〇さんのそういう姿を見るのはとても残念だ。係の仕事の時は一生懸命やれるのだから、掃除だってきっとできるはずだと私は思っているよ。教室がきれいになってみんなから感謝されたら、君だってうれしいでしょう？』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アサーティブな表現を、練習する時には、自分の表現が相手にはどんな印象だったかを尋ねてみるようにします。

※「アサーティブ」とは

自分の要求や意見を、相手の権利を侵害することなく、誠実に素直に対等に表現すること。

児童生徒との信頼関係を築くには、それなりの努力と時間を要しますが、体罰や言葉の暴力などで信頼関係が壊れてしまうのは一瞬です。これまでの良好な関係を維持するためにも、アンガーマネジメントの手法を身に付けておきたいものです。

(4) ロールプレイによる怒りのコントロールの体験

(3) で見てきた『①感情の冷却』『②解決思考』『③自己表現』のそれぞれのステップを踏まえながら、次の例にあるようなシナリオをつくり、ロールプレイをすることによって、実際に怒りをコントロールする方法を体験してみましょう。



例1 後ろを向いて話す生徒Bに

先生A「こちらを注目しなさい。」
生徒B「はい。」
(前を向かない。)
先生A「〇〇さん、前を向きなさい。」
生徒B「分かってます。」
(前を向かない。)
先生A「・・・・・・・・・・」

例2 髪を染めて登校した生徒Dに

先生C「その髪はどうしたのですか？」
生徒D「うるせえな。」
(その場を去ろうとする。)
先生C「待ちなさい。」
生徒D「あんたにはとやかく言われたくない。」
先生C「・・・・・・・・・・」

「怒り」は誰にでもある感情です。「怒り」をエスカレートさせる前に思いや願いを上手に表現する方法を学ぶことが大切です。

振り返ってみましょう

- | | | |
|----------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| 1 穏やかに率直に話すことができた | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 2 相手の話に耳を傾けようとした | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 3 児童生徒一人一人のよさや可能性を把握しようとした | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 4 児童生徒との共感的な関係づくりに努めた | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 5 侮辱するようなことばを使ってしまった | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 6 相手を押し黙らせようとした | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 7 相手をにらみつけてしまった | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 8 相手を圧倒するほど接近してしまった | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 9 脅かすような身振りをしてしまった | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |

Ⅲ 研修シート

(1) 児童生徒理解研修

実践演習 1 インシデント・プロセス法を取り入れた事例検討会

インシデント・プロセス法とは、インシデント（実際に起こった出来事）をもとに、参加者が事例提供者に質問することで出来事の背景や原因となる情報を収集し、問題解決の方策を考えていくもので、実際の教育相談で用いられています。事例提供者は、事前に資料を準備する必要はなく、いつでも簡単に行うことができます。この事例検討会を行うことで、生徒の様子がよく分かり、生徒理解、支援のさまざまなアイデアを共有することができます。

<インシデント・プロセス法を取り入れた事例検討会で期待される効果>

- ◆参加者は問題解決の当事者の立場で考えるため、主体的・積極的な検討になる。
- ◆実際に発生した問題とその解決方法を、参加者が共有できる。参加者のその後の実践的活動に結びつきやすい。
- ◆事例提供の資料が少なくすむので、事例提供者の準備の負担が少なく、誰でも引き受けることができる。
- ◆質疑応答は事例の事実について行われ、質疑や協議が事例提供者の対応についての批判にはなりにくく、事例提供者の心理的な負担が少ない。

インシデント・プロセス法を用いた事例検討会の流れ

(1) 役割の確認（1分）

- 事例提供者をあらかじめ決めておく。
※（資料を準備する必要はなし）
- 司会者を立ててもよい。

(2) インシデント（出来事）の提示（9分）

- 事例提供者はインシデント（一番困っていることなど）を発表する。参加者は内容を把握する。

例：授業中に集中できず、すぐに周りの人の方を向いてしゃべり始めてしまう生徒がいる。何度注意しても改善されない。困っている。

ポイント：質問を促すために、説明をしすぎない。



(3) 事実・情報の収集（15分）、整理（5分）

○参加者は、事例提供者に質問し、問題点に関係があると思われる事実や情報を収集し、整理する。

＜質問のポイント・・・事例が起こった背景や原因になることを尋ねる＞

好きな教科、嫌いな教科、宿題の提出状況、他の授業態度、休み時間の様子、部活動の様子、家族構成、家庭環境、生育歴、興味・関心の対象 など

○事例提供者は、質問されたことのみ簡潔に答える。

＜答えるポイント＞

事実が確定できないこと（想像）は答えない。「分からない」と答える。

(4) グループ討議（15分）

○参加者は、小グループ（3～4人）に分かれて対応策と理由を話し合う。グループごとに、司会者、記録者を決定し、グループ内で出された内容を発表できるように記録しておく。

＜考えるポイント＞

- ★自分はどんな指導、支援を行うか考える。
- ★いつ、誰が、どのような対応をするか、具体的に考える。
- ★教員がチームとして取り組むために役割分担をする。

【対応策の例】

- ・ 座席を前の方にする。
- ・ 学習のルールを示す。
など

(5) グループからの発表（10分）

○各グループで話し合った対応策と理由を発表する。

参加者は、他のグループから出された対応策と自分の対応策を比較する。

【発表内容の分類例】

- ① 教室環境の見直し
- ② 学習内容の見直し
- ③ 家庭との連携
- ④ その他

※項目別に分ける。

(6) 検討会の振り返り（5分）

- 発表者 : 事例検討会の経過や感想を述べる。
- 参加者 : この事例と参加者相互から何を学んだかを述べる。
- 司会者 : 検討会のまとめをする。
- 事例提供者 : できそうな対応を検討し、優先順位をつける。
出されたアイデアについての感想とお礼を伝える。

実践演習2 | ロールプレイをやってみよう！ その1

ロールプレイでは、それぞれの役割を演じることで、相手の考えや感情の動きを知ることや自分の言動の特徴をつかむことができます。体罰が発生しそうな状況を想定し、どう対応したらよいかを事前に考えておくことはとても大切です。先生役と生徒役を交代して、互いの役を実際にやってみましょう。

場面1

反抗的な態度を繰り返す生徒に対し、次の場面のようにカッとなった時の対応について考えてみよう。



① あなたは、どんな対応をとりますか？

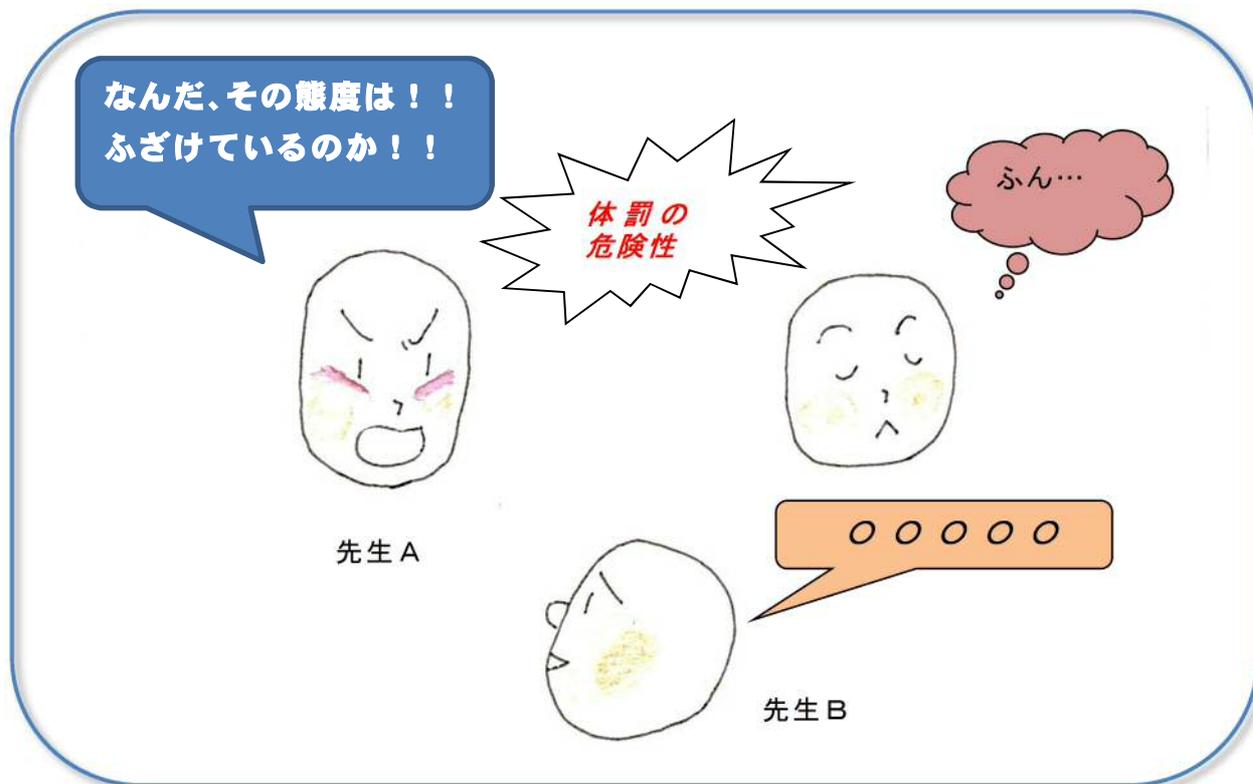
② どんな言葉かけや対応をすれば、相手にこちらの伝えたいことが伝わるか考えてみましょう。

《指導のポイント》

- ◆感情的になっていることを自覚し、冷静な目で見つめましょう。
- ◆深呼吸をして間をとり、言葉で伝えましょう。
- ◆場合によっては、その場で解決せず、場所、時間を変えて対応しましょう。
- ◆保護者や他の職員、一般の方に明確に説明ができる対応をしましょう。

場面2

「場面1」のように体罰の危険性がある場面に、自分（先生B）が遭遇した時の対応を考えてみましょう。



① あなた（先生B）は、先生Aにどのような声かけをしますか？

② あなた（先生B）は、生徒にどのような声かけをしますか。

《指導のポイント》

- ◆先生Aが冷静になれる言葉をかけましょう。
- ◆生徒が素直になれるような言葉かけや対応を考えてみましょう。

(2) 体罰事例研修

事例1 (学習態度に関わる生徒指導中の体罰)

理科の授業中の出来事である。授業が始まりしばらくしてもクラス全体が騒がしかった。特に、教室後方に座っている女子生徒4人のおしゃべりが目立った。教科担当のA教諭は、その生徒たちに近寄り、注意をした。すると、その中の一人、生徒Bが「何で私たちだけを注意するの。あの子たちにも注意してよ」と言い返してきた。A教諭は「君らが特にうるさいから注意したんだ」と答えたが、それ以上は何も言わなかった。女子生徒たちはしぶしぶではあるが話すのをやめ、クラス全体も静かになったため、A教諭は授業を再開した。

時間が経過し、A教諭が教室内を巡回すると、さっきの生徒Bが机の下で携帯電話を触っていた。A教諭は「それを出しなさい」と言い、携帯電話を預かろうとした。しかし、生徒Bは一向に渡そうとしなかった。そこで、A教諭は生徒Bが持っている携帯電話を強引に取り上げようとした。すると、生徒Bは「やめて！あっちに行け。うざい」と感情的に言葉を発した。その言葉にカッとなったA教諭は携帯電話をつかんでいる生徒Bの左頬を平手で1回強く叩いた。その後、生徒Bは泣いて教室を出ていった。A教諭は授業を続け、しばらくしてチャイムが鳴り授業が終わった。

生徒Bは帰宅後、母親にA教諭の行為について話をし、すぐに母親から学校に電話連絡が入り、説明と謝罪を求められた。

<質問項目>

1 事例の検証

(1) A教諭が体罰に及んでしまった背景(感情的になった原因)を考えてみましょう。

(2) 生徒Bはなぜそのような行為に至ったのでしょうか。

(3) A教諭は生徒Bのどのような行為(問題行動)を反省させたいのでしょうか。

2 未然防止の方策

(1) A教諭はどのような行動をとるべきだったと考えますか。

(2) 体罰防止のために学校としてどのような指導体制が必要だと考えますか。

事例2 (生活態度に関わる生徒指導中の体罰)

C教諭は、日頃から厳しく生徒指導をしている先生である。ある日、C教諭が授業に行くために廊下を歩いていると、前方から服装違反をしている男子生徒Dとその友人がやってきた。生徒Dは普段から服装違反を繰り返し、再三注意を受ける生徒である。C教諭は、生徒Dを呼び止め「おい、お前！何だ、その服装は」と大声で叱責した。生徒Dは、不満げな顔でC教諭に聞こえるように舌打ちし、服装も直そうとしなかった。C教諭が「どうして、いつも違反ばかりしているんだ。ちゃんと出来ないのか」と問いただすと、生徒Dは無視をして、その場を立ち去ろうとした。

生徒Dの態度に腹を立てたC教諭は、追いかけて腕をつかみ、制止しようとした。生徒Dは、「うっとうしい！触るな、バカ」と暴言を吐き、つかまれた腕を振り払おうとした。憤慨したC教諭は、「何だ、お前、その態度は」と怒鳴り、生徒Dの胸ぐらをつかみ、体を激しく壁に押し当て、足を蹴った。その後、C教諭は生徒Dを生徒指導室へ連れて行き、服装違反や言動の誤りを指導した。担任が保護者に連絡を入れ、本人及び保護者も今回の指導について理解・納得した。

しかし、翌日、その指導の場に居合わせた友人の保護者から学校に電話連絡が入り、「体罰だ」との指摘を受けた。

<質問項目>

1 事例の検証

(1) C教諭が体罰に及んでしまった背景(感情的になった原因)を考えてみましょう。

(2) 生徒Dはなぜそのような行為に至ったのでしょうか。

(3) C教諭は生徒Dのどのような行為(問題行動)を反省させたいのでしょうか。

2 未然防止の方策

(1) C教諭はどのような行動をとるべきだったと考えますか。

(2) 体罰防止のために学校としてどのような指導体制が必要だと考えますか。